

第9回 ふくしま新ステージ有識者懇談会議事録

- 1 日 時 令和2年10月20日（火） 午後1時30分～3時
- 2 会 場 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室
- 3 出席者 伊藤宏会長、岡野誠委員、菅野孝志委員、菅野廣男委員、木下真理子委員、齋藤美佐委員、高橋満彦委員、高橋理里子委員、早川正也委員、三宅祐子副会長
渡邊博美委員

- 4 欠席者 高谷理恵子委員、西内みなみ委員、

5 内 容

○第9回懇談会（司会：政策調整課長）

（1）開会

（2）市長あいさつ

（3）会長あいさつ

（4）議事（議長：伊藤会長）

議 長 事務局より「（1）今後のスケジュールについて（2）第8回有識者懇談会の振り返りについて（3）第6次福島市総合計画まちづくり基本ビジョン『重点施策』及び『個別施策』の素案（案）について」は関連がありますので、一括して説明をお願いします。

事 務 局 資料により説明。（「ふくしま新ステージ有識者懇談会【第9回】」「資料1」第6次福島市総合計画 まちづくり基本ビジョン 体系図（素案）（案）」「資料2」第6次福島市総合計画まちづくり基本ビジョン 素案（案）」「資料3」個別施策項目一覧）」

（補足説明）

現在策定中の総合計画と、人口減少対策と地域活性化に特化した総合戦略を、令和3年度から一体化し、その取組みを推進する。そのため、総合戦略のベースとなる平成27年度に策定した人口ビジョンを今回改定し、新総合計画の中に盛り込んで、人口減少対策も進めていく計画にまとめていく。

議長 資料1の12の重点施策について中身や文言について意見をいただくとともに、それに対応する資料2の10～16ページの文章についても意見をいただきたい。

委員 資料2P13「重点施策7 「人」と「活力」であふれる農業と商工業の実現」について、福島大学食農学類や医大を含めて、色々な研究機関がたくさんある。その中で福島という地域は、農業という分野で考えれば多様性がある。果物を中心として、米もあるし、園芸もある。福島県全体の総生産額では米が中心ではあるが、園芸でもとても大きな地域になっている。

その中で、言葉として「農福連携」や「6次化」とあるが、もう一步全体的に「活力ある」というところを前面に打ち出したような地域にする、ということが伝わるような施策がこの中にあるといい。特に農業関係のところでもそう思う。

事務局 「活力」を感じられるような文言を加えます。

委員 資料2P11からの「重点施策4 安心して暮らせる健康福祉の実現と医療体制の強化」について、P12「(3) ③医療・保健関係者に対するサポート・支援体制を充実するとともに」という文言に追加して、現在懸念されている「2025年問題、2040年問題」を入れると、さらに緊急性があることが皆さまに分かってもらえる。

事務局 「2025年問題、2040年問題」を踏まえた文言を加えます。

委員 P11「(2) 健都ふくしまの実現」について、非常に良い取組みだと思う。強いて言えば、特に、受動喫煙防止に関しては、世界標準レベルまでもう少しレベルアップしてほしい。現時点での施策内容を見ると非常に脆弱である。これでは世界と肩を並べられない。来年はオリンピックも控えているので、WHOの基準にかなうような全面禁煙をうたってほしい。

委員 ICTの問題など色々出ているが、具体的に政府が進めようとしているのは、「5年後には全国のシステムを含めて複合化・簡略化しよう」という動きである。それに対してどうするのかは、P16「重点施策12 ICTを活用した先進的市民サービスの向上」の部分で盛り込まれているということでしょうか。

事務局 ICTに関しては、「重点施策12 ICTを活用した先進的市民サービスの向上」に盛り込んだところではあるが、不足する点については、委員の皆さまから

のご助言を踏まえ、素案の中にそうした内容を盛り込んでいきたい。

議長 重点施策12は重点施策1～11のすべてに関わることであり、ICTの技術が発展することで色々な方面で影響が出てくる。

今回のコロナで授業がリモートになったが、パソコンを持っていない学生が一定数いることや、全国一斉にリモート授業をやると回線がパンクしてしまうことなど、先進諸国と比べるとリモート授業に関してレベルが低かった。そのような状況も含めてICTは色々なところに関わってくる。

委員 行政サービスの分野でICTを利用すると市民にも親しみやすいが、市民生活の分野では、ICTをどのように活用すると市民生活の質が向上するかが市民には分かりにくい。行政サービスの分野だけではなく、市民生活の分野についても、行政側から具体的に分かりやすく伝えていく必要がある。

事務局 本日、新型コロナウイルス関連の第7弾に係る緊急会議を開催しており、その中で「電子町内会モデル事業」という予算を計上している。希望する町内会に対して、今まで紙媒体送付していた文書をメールを利用して送付するなど、緊急性の高い情報を速やかにお届けする取組み等を予定している。また、ICTについてわからないことも多いと思うので、地域へICTアドバイザーを派遣して、機器類の操作方法や生活に活用するための相談を実施していく。行政のデジタル化と共に、地域のICT化も進めていく。

議長 「重点施策12 ICTを活用した先進的市民サービスの向上」は、行政が市民に対して行うサービスを向上しようという視点であり、それも必要だが、ICTは我々の市民生活や社会生活に色々な影響を与え、今後教育や災害の分野もICTを活用して今までよりもいい方向に進むと思うので、それを含めて、行政サービスだけでなく、もう少し広い意味で市がリーダーシップをもってICT活用を進めていくというニュアンスがあると良い。

委員 各企業でオンライン研修の機会も増えたが、行政側として、こうすると会社内で生産性を落とさずに社員教育ができるという企業へのアプローチや、オンライン研修等を積極的に利用してみませんかという個人へのアプローチなど、企業・個人両方へのアプローチがあると地域全体のICTの底上げになる。

委員 医療現場でリモート診断も増えてきているが、患者に触れなければならない仕事はリモートではできない。ケースバイケースだと思う。

- 委員 行政サービスだけではなく、市民生活をより豊かにするためにICTやデジタルを使った方がよい場合の例を、市としてうまく市民に提供してくれると広がりが出てくる。
- 委員 重点施策に目を通すとAIやICTという単語がたくさん出てくる。重点施策の項目として、市の取組みだけが重点施策に入っているのも、ICTを活用したまちづくりといった項目があってもよい。その中の一つとして、行政のICTが入っていればよい。「重点施策11 新たなまちづくりへの挑戦と発信による都市ブランド力の向上」に含めてもよいのではないか。
- 議長 「重点施策12 ICTを活用した先進的市民サービスの向上」の表現だと狭い感じがするのでもう少し広がりを持たせるような表現にして、かつ重点施策1～11は、ICTと密接な関係があり、それについて推進していくというような文章を付け加えていただくとよい。
- 事務局 「重点施策12 ICTを活用した先進的市民サービスの向上」は、行政側の重点施策としてまとめた内容であったので、市がリーダーシップをもって地域社会全体のICTを底上げしていくといった内容について、重点施策12又は11に加えることを検討する。
- 委員 台風19号の時に、緊急避難命令が出てはどうしていいかわからないお年寄りから、夜中に電話で民生委員に相談があったという事例があった。緊急時にICTを利用できない人がかなりの数いるという実態や、情報は発信すればいいということではなく、高齢者やいろいろな理由でそれを使用できない市民に対して、それを補完する意識も大事である。現実を直視した視点はビジョンの中にあってもよい。
- 議長 ICT弱者は一定数いて、ICTが発達しても、災害の中で通信環境が悪いと情報が即座に伝わらないこともある。そこも含めたケアも必要である。
- 委員 市民活動をしているNPO団体も対面リモートでやるかどうかは悩んでいる現状である。発達障害の団体の場合だと、外に出なくていいのでリモートの方が逆に相談しやすくなったなど、課題を抱える人がアクセスしやすくなった事例も

あり、コロナがなければ、そこは潜在的に埋もれていたままだったと思う。

新たなステージに共創でやっていこうという市民活動は、どの分野にもしっかりとつながってサービスを向上させていくという意味で、まちづくりや新たな市民活動の背中を押してくれるような、市民側に立った視点の文言を重点施策12にうたっていただけると良い。

委員 P14「重点施策9 移住・定住に向けた支援・受入体制の強化」の「(1)① 移住・定住先に選ばれるまちづくりの推進」について、東北中央自動車道の整備されたことにより福島―米沢間が30分足らずで結ばれたので、他県から福島に移住して山形に通勤農業できる、ということもアピールする必要がある。首都圏等だけではなく、間口を広げて福島環境が整ってきたので移住した方がよいという文章に修正することも検討してほしい。

事務局 検討する。

議長 他の部分で何か意見はあるか。

委員 P10「重点施策2 復興・創生のための放射線対策・風評払拭の充実」では、充実という割に、内容の文末がすべて「引き続き推進します」としか書いていないので、もう少し表現を考えた方がよい。

事務局 重点施策の名称と内容が一致しない点もあるので改めて検討する。

委員 小中学校の放射能教育はやっているのか。

事務局 全ての小中学校で行っている。

委員 福島市は、放射線の問題については、色々な意味で農産物も含めて苦労してきた部分もあるので、子どもたちにきちんと教えた方がよい。また、トップセールスの展開は新たにどうするかも含めて考えていく時期に来た。どのようにしたら福島活力を導き出せるかを新たに検討する段階に来たと思う。

委員 コロナが、世の中を加速度的に多様化したり変化したりするきっかけになっている。ICTに関しても、二方面で問題が起きている。二方面的な問題や課題の捉え方が必要で、それは今後さらに増えてくる。移住・定住に関しても、ワーケーションのような交流人口のテーマもあるし、少子化の問題に関しても、同性婚

について今後福島市でも認めていってほしい。また、LGBTの問題については、もう少し踏み込んで考えてほしい。

P10「重点施策1 えがおあふれる子ども・子育ての新ステージの実現」に結婚の問題が出ていることに違和感がある。子育てのところで結婚支援までさかのぼる必要はないのではないか。

委員 LGBTQ問題も、P11「重点施策4 安心して暮らせる健康福祉の実現と医療体制の強化」の「(1) ①～外国人またはLGBTQの人たち」と入れると違ってくると思う。LGBTQに対する理解をしている市であると、移住・定住先に考えるという人もいます。そこも含めて考えていただきたい。

議長 **資料1**の重要な視点に「3. 多様性の尊重」とあるので、男女が知り合って結婚して子どもを産むというものの以外の多様性についても、うまく入れていただくと良い。

議長 他に意見はあるか。

議長 時間となったので議論を終了する。今回の意見を踏まえて事務局に修正をしていただきたい。実質1年半、9回に渡り、皆さまのご協力のもとで懇談会を進めることができた。計画の実効可能性と進捗度の検証を踏まえながら、より良い総合計画となるようブラッシュアップしていただきたい。

(5) その他

○今後のスケジュール

本日の議論を踏まえて素案を修正し、11月下旬にパブリック・コメントを実施する。その前に委員の皆さまには内容をお知らせする。来年1月中には原案を確定し、今年度中に議会にかけて年度内には新総合計画として決定していく。

(6) 閉会